

幸せは

逃げない

令和2年4月

義人

新約聖書
ヨハネ第一の手紙

第3章

わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。

2 愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。その御姿（みすがた）を見るからである

3 彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあらわれるように、自らをきよくする。

4 すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。

5 あなたがたが知っているとおりに、彼は罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんら罪がない。

6 すべて彼におる者は、罪を犯さない。すべて罪を犯す者は彼を見たこともなく、知ったこともない者である。

7 子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である。

「エホバの証人山口くんへ」

オリンピックは殺し合い、生存競争の勝利者になる為、年少より欲望と冷酷さを叩き込まれ、その頂点、一瞬の栄光を目的とする残酷な世界に身を投げる。負ければ、期待を裏切った、みじめな敗北者となる。白い目にさらされる。それは生死をゲーム化し遊興とするものだ、ある意味、戦争より悪質である。親戚に長い寝たきりから死んだ人がいる。最期まで神仏にはすがらなかった。ある意味強いのか。だがその心が不幸を呼び寄せた原因である。救いの手を差し伸べた神仏は悲しんだだろう。ただ先に死んだ長子の成仏の為、手を合わせてほしかった。ふと疑念が、またしても聖書に「自分は神か」と尋ねた。最早どうでもいいと言う。聖霊の宮まで達した私。結果、聖書は幸せだと断言した。死んだら全員、阿弥陀に拾われて仏になる。現世利益から即身成仏を説く処。弥勒菩薩が仏になるまで娑婆には仏はいない。また仏が二人いてはおかしいと。なぜだ、何を根拠に、仏とは何が正しいのだ。皆、見方が実証的すぎる。凝り固まった数学的概念、理屈から抜けよ。南無妙法蓮華経。悟れば、皆、仏である。エホバの証人の会衆よ、君たちにとって神はどんな出現の仕方が理想的だったろう。空から神々しく降りてくる。それはサタンだ。幾多の苦しみ、また絶望を経験し、大きな愛を、小さな声で放つのがエホバである。法華経に釈迦如来が過去世、教化した菩薩たちが地面の下から湧いてくる譬えがある。つまり辛い苦しい生活体験こそが聖者を生み出すのである。自然に記憶されるものもあれば、どれだけ努力しても覚えることのできないものもある。因縁である。不必要なものは記憶されない。暗記から私は解放された。残った記憶が大切である。あけましておめでとうございます。色々話したいことがあります。またお寄りください。インフルエンザを付けご自愛ください。私達の融和に向けて重要です。私はエホバです。人格者とはただ清廉潔白の士ではなく、暖かさ、親近感がなければ価値はないと思います。ペテロに「魚より人間を捕らないか」。イエスはこんなに頭がやわらかかった。私がエホバ。神を自称すればみんなが引く。サタンの策略。名乗ったからには仕方ない。正々堂々と。来る世、私は古典落語の噺家になりたい。そして皆の夢のすべてをかなえる。楽しい完全な世界。神、イエス、聖霊、分離説は、ビギナーにはわかりやすい。勧誘が目的ならば方便として認めるか。だがあまりに単純化されると思考の鈍化を招く。ケアが必要。ネットにコメントしまくり、また近所中に冊子を配り広報したが、特別、善き出会いもなく、また悪漢に脅されることもない。不思議だが聖霊が自由平和を保護し守っている。聖書が保証する。かつて私は自筆本で神は愛を強制する役目と書いた。しかし人の心を支配したいのではなく善に向けての真の協働者になりたい。私は自由な奴隷かも

しれない、つまり奉仕人か。「我が義人は、信仰に生きる。もし信仰を捨てるなら私の霊はこれを喜ばない。私たちは信仰を捨て滅びるものではなく信仰に立ち命を得るものである」聖句へブル。一人の青年として君の本音が聞きたい。理由は君達、会衆が他人行儀で本気で打ち解けていないような冷気を感じるからだ。私は会館に訪ねた際には、陽気にイエスのようにご婦人たちと歓談したい。12日、電撃訪問。信者を明るくしたい。孤独な世界は終わりを告げる。山口くん、愛する女子を幸せに。規律は来る世に入らない。私の目指す世界、愛による共同体が、全大陸島々に生まれ、オリンピックに代表される競い、争うという思想が消えさり、皆口々に愛を語りだす。それが俺の夢である。君たちが毎回行っているシンポジウム、パリサイ人をつくるものかと。確かに一般の団体生活には規律、規則の順守が必要だ。だが聖霊の宮には必要ない。来る世への資格が確実に存在するからだ。山口、分かるだろう。規則をつくりその順法の度合いから人間性に優劣をつける。それよりイエスを信じ祈れば罪は消える。信仰がすべてだ。原罪を背負った、すべての人間たち。つまり大切なのは、イエス以外の人間は皆、罪人、病人であり、それを自覚し、救う神の愛へ素直に感謝すること大事。パリサイ人（律法学者）ではだめ。君の仕事はきつくないですか。帰り遅くならないかい。岡田君も疲れ気味だったな。沢村君はマイペース。清水さんにはかなり好印象を持っている。それって裏切られることが多いのだよな。体に気を付けて。イエスは病人を癒すため、神のもとから来た。実は病人とは愛のない人である。イエスの愛が分からないもの、それが偽善者であり本当の病人なのだ。パリサイ派が代表である。心より規則を大事にする。内村が言う。イエスの友は同様に、義に悩み愛に苦しむものだ。王国会館で皆を見た。君へのメールの影響か、いつになく皆に人間を感じた。それでいい。偽りの笑みはいらない。そして私の真実の教えにて神への懐疑よ、去れ。山口くん、いつ、どこにいても悪意は持つてはいけない。神を愛し、隣人を愛す。人は各々、あてわりがあって生きている。まずはすべてに感謝することから始まる。私の本を読んでも心ざわつかず、悪心も持っていないということだね。ならば嬉しい。私は会館へと訪問し、君たちへの好感度が上がったのは確かだ。盗み殺し合う世間、原罪を道徳、法律でカムフラージュ。反抗、盗んだバイクで自由になった気がした 15歳。幼児、児童虐待、まさに悲劇中の悲劇だ。残酷なサタンが心に大きく影響を及ぼしている。利潤の奪い合いに躍起になる大人達。服従を強いるパワハラ。誰も責められぬ世。悪魔の末期、高らかに哄笑が響き渡る、次第に心細い鳴き声へと。君たちは会の規則を遵守することを求められてきた。でも主体性を忘れぬように。自由、愛、平和。常に義を率先し抱くこと。魂の改革は今、大切だ。

我が本、読破ありがとう。君らに情けをかけたい。聖書は言う、ドグマと規則を重んじるパリサイ人は、愛にて変身させなければ。私は是々非々、会館にも懐柔の想いがある間、参上したい。タブレット端末を手に入れて、自筆本の広報をしたい。そこらへんに詳しい君、宅に訪問下さるときレクチャー願います。そして強くご自愛を祈っております。R会の教え、変わることができるのは自分だけ、「仏の関与を感じよ」。正解である。だが気付きを持続させるには仏陀の覚りを仏種に刻み込まなければいけない。南無妙法蓮華経。「自分は教祖である」。へんでないですか。誰が保証する。「私が神である」、名乗るのが不遜だと言う。保証するのは聖書と霊による自覚。こんな解りやすくして正しいことはない。つまり、傷ついて、泣き叫んでも希望のにおいがする。孤独、悩みの中にある人々。優しさ、いたわりを信じたい心。高らかに鐘をならす。それが神の姿。イエスは律法をより厳密化するために来た。つまり誰も順法を誇れない。人々の癒しは信仰にしかない。それは神を愛し、隣人を愛すこと。暖かい、思いやりを持った人になろう。私は神として「エホバの証人」が一番楽園に近いとは思う。君の人間性から感じる。私は自己執着の強いものを切った。神の国には不向きだ。隣人への愛が不足している。明るく素直に温かく。それが一番。善きことを重ねれば善きことが生まれる。君たちの善良さを信じる。神の選民は愛にて保障される。悪魔の子は私に疑念を持つ因縁にある。「誰も君が神だとは信じないぞ」。聖書が言う。「困るのは私ではない」。「ならば行け」。明日会館に参上します。実は最初の日、挨拶に対し私が厳しく拒否した一人の娘、傷つけた気がして罪悪感に苛まれています。逢えればいいなあ。「困るのは私ではない」と少し冷たいニュアンスになったが、私を信じてほしいのだ。王国、楽園の主だと。君たちが本当に愛する人と永遠に生きる。信じる者は救われるのだ。今日は君に逢えなかったこと、清水さんから携帯番号教えてもらえなかったこと残念です。彼の自衛の姿勢には懸念があります。石井さんは相が良かったな。さすがリーダーだ。細かくチェックをすることが善きことかはわからないが、水を施せば花は咲く。人間性、各自ある。神からの関与に対しては自然に任せるのが一番だ。善き樹木の下に善き鳥は集まる。すべて天知る、我知る。心配ない。悪意さえなければ天は善良さを認める。それは神を愛し、隣人を愛すことに尽きる。私が善き友人、兄弟になれることを祈っています。話しかける若い女性、突き倒すように、「俺は女とは話さない」きっと傷ついている。パリサイ人の罠、俺も陥っていた。一言でよい、謝りたい。逢いたいなあ。山口、4月、終末を迎え、楽園に心正しきものは入る。ひたすら待っていた君の実直な御父上を始め、私を侮辱しなかった君も入る。老いた善人は若さへの福音を得、すべて楽園には入るべきものは入

る。 私はイエスと日蓮が功德の塊と信じている。真宗門徒は親鸞の思想を信じる。理と情を説いても翻意は無理であろう。さて地獄はどちらの道か。現世利益を否定してはいけない。判るだろう真実が。南無妙法蓮華経、幸せは逃げないのである。 どうだい。私の会館訪問は不評をかっていないかい。また参上してもいいかな。皆、以前より人間らしく感じ嬉しかった。本当の修行はこれからだよ。 誤解を避ける為、聖書の神をエホバと表示した方が良いかも。神という表現は日本で古今一般的に用いられている。概要は広範に及ぶ。人間の知覚が、久遠元初の温かい気をどう名付けたか、日本では神と呼んだのである。それがエホバであり、闇から光へと人々を導く。山口、エホバは名前ではないが、それより深い愛のプレゼンス（存在）を謳っている。ある宗派の男が、神は日蓮を守る善神しかいないとも言う。 エホバはある意味、ただ一般の神という表現は不適切だ。エホバはプレゼンスに対しての愛の称号、特別だ。私が杉田氏に生前お聞きした、エホバが七千、記された聖書の存在。その正当性。今、私も認めます。エホバ、聖書の神いずれの表現が妥当であろうか。エホバの称号は愛とイコールである。久遠元初の気、聖書の神と規定すれば、エホバもその核は愛、了承しイエス、ヨシトは誕生した。とりあえずエホバは聖書の神、それでいい。エホバは称号である。 貞操を守り清い人格を得る。裏返せば婚前に処女を失うことの罪悪感。一般的な保守的男性が処女性を気に病むのは血統を正確に残したい本能からきている。少し意識しながらアガペーに向かいたい。女性の操を重んじる男性、ただ潔癖に沈まないで下さい。自由、博愛、平和の実現のため。寛容を身につけて下さい。一番良くないのは優しさの喪失だから。 死があるから生が光る。これは否めない。死がない。「蜘蛛の糸」のお釈迦様のようにプラプラ漂うように生き続ける。まずはこれを肯定するものだけが楽園に入るのだ。煩惱の滅却した果ての世界があるからだ。 激しき享楽、古代ローマ、不老不死を求めた始皇帝。私は贅沢に縁がなかったから享楽より禁欲を支持するのか。釈尊は王子に生まれ裕福だった。が禁欲的だ。個人の志向だろう。私も「杜子春」が行き着いた、静かな正しき暮らしを望んでいる。八正道、釈尊の道を。 四門出遊、釈尊は生老病死の現実を意識して出家した。死の闇を忘れる為の享楽はむなし。 死後も永遠と饗宴を繰り返す。カンヌ映画祭で高評価を得た「アンダーグラウンド」。聖書には消化器官はなくなるとある。遊びにうつつ抜かした学生時代、饗宴、楽しかったのは否めない。 奴隷。カースト制、優しき釈尊、その差別にさぞかし心痛めたらう。世界のありよう。自らの自由だけでなく利他の精神で、生きとし生けるものの救済を旨とした。 野蛮な人間が享楽を求めれば非道な様相となる。つまり愛なき世界が生まれる。落ち着いた趣でしっかり前を

見据える。清らかな世界を感じる。神の国である。内村、義のために戦い、愛のために苦しむのが友人だと。自己犠牲のにおいが濃い。時代に任せよ。自ら敵と抗わずとも神とサタンが働き天は裁く。神の子はただ愛し合うことだ。利他に生きる者が集まり、思いやりに満ちた時、神の国は現れ永遠の命を得、それらの人はもう死なない。人への愛の関与は自己犠牲ではない。そう思える人たちは、御使いたち、聖霊の宮へと、幸いは近い。私の自筆本がおかしい。聖句のナンバーがひたすら誤字になる。モグラたたきのように。いたずらである。ヨハネの黙示録の最後、文言を取り去ることは命の木を都から取り去るようなもので罪になる。聖書は靈感だ。私の参謀であり保護者である。解釈は私の自証にある。しかし文言をごまかしたり、消したりは命の木を都から取り去ることになる。聖句の表示、絶対正確に。悪魔が付け込むからである。危ない、聖書は神の靈感である。文字の正確さより信仰の推奨である。悪魔の罠に落ちるところ。本意を取り去ってはいけないのだ。釈迦は道端で糞を漏らし野垂れ死にした。イエスは磔にされ槍で両わき腹を貫かれた。彼ら、平和な死ではない。だがはっきりと愛をシンボライズさせる。生前、釈迦は「こだわるな」と法を説いた。それで死に方が自由溢れるものとなった。イエスは義のため悪すなわち偽善者と闘った。それが十字架の死につながる。愛が象徴的で鮮明である。生きていくにはいついかなる時でも死んでいいと思うこと。勇気が湧いてくるから。そんなめったに死にはしないから。そして祈れば世界は愛で回る。失敗するのも当て込まれ全知全能になる。たとえいかなる時も。「詭弁だ」と言うか。そうではなく最後に暖かさや優しさが残るかどうかが大事なのだ。それこそが聖霊の宮のわざである。4月、終末説。現実か。私は確信持てない。本音だ。未曾有のことだ。すると聖書は終末を否定する。私が強い意志で期待を込め熱望するときのみ是と答える。果たして本当に終末は善なのか。ヘルパーさんの顔色が変わった。俺の自分勝手か。たぶんこれが今までの神の先送りの経緯なのである。躊躇。だが重い。大量虐殺は。金に細かい奴とは付き合わない。経営者ならシビアなのは仕方ないかも。けど人生、幸福に生きていくのにはケチが一番のマイナス要因である。いつも「まだこんなに残っている」これが正解である。「神を敵に回さず」このフレーズが送信できません。隣人を愛し本日お寄りになることできませんか。急な要望は却下ですか。エホバは、ときにわがままです。それが神の義だからです。大きな意味合いがあります。連絡お待ち申し上げます。私怨を持つ経緯もない。君にも敵意はないと信じている。来る世の未来図お聞かせください。納得したいのだ。共通項と具体性を見出せたら本当に嬉しい。私と君たちに亀裂をもたらそうと画策しているのはサタンなのだぞ。まだ理解でき

ぬか。俺に対する不敬を恐れるより親近感の醸成を優先せよ。私の問い掛けに普通に答えればいいのだ。寂しいがエホバの証人とは縁を切ることにした。神の義と愛に基づいて。善意と良心を大切に。ヨハネ、12章 42,43節 「指導者の中にもイエスを信じるものはたくさんいた。だがパリサイ人の追放が怖い。神より人の栄誉を愛したからです」。判るね。今エホバの証人は一番近くて、遠い。素朴な純粹さも消え、ただのパリサイ人である。必然である。自由で笑顔の絶えない楽園で私は暮らしたい。聖書の示唆があり君たちを無下にできない。体制は変わる。優劣を問わず愛を抱いたものが必ず報われる。聖書はただ神(愛)を大切に、それだけ知らせよと。君が本当に良心を突き詰め、犠牲の意識から離れたとき、必然的にエホバからの徴があらわされる。聖霊が不老不死を伝える。時期はきた、真心で受ける大切だよ。ヨハネ 12章 42,43節 よく噛みしめて下さい。予定調和、神の子であれば神の誉を選択するはずです。エホバのご加護を、皆に福音を。アーメン。新約の神には殺生は似合わない。極悪な勢力は隔離されなければならない。独立し悪を発信する局は存在する。サタンである。ハルマゲドンが間近に迫っている。自分の世界に入っていなければ外部にかく乱されそうな気がする。サタンは手を変え、友の裏切りから私に親しき者の選択を迫ってくる。静観する。愛がすべてである。月一くらいの接触はありでしたね。山口くん、口からはっきりと聞いたよ。恐れずぶつかってこい。待っているから。ヤツとの戦いを忘れるな。今月、会館に行ける予定は明日しかない。今日はよそでやっているって。意志か指示かわからないが元気でいてくれ。君がいなくて拍子抜けだ。会衆の行動から皆が私にそう好意的でないことが判明した。聖句は成就された。4月終末説は今2月16日時点で、皆目見当がつかない。聖書の語りである。人間義人には責任がない。もし外れた時、神から去る人には、果実はない。人は常に神と生きねばならぬからだ。天のお試しかもしれないな。俺は来る世の細部、システムを知りたい。どう布施し合うか。皆に高次な社会主義の意識が必要だ。主な資産の共有、婚姻家族関係の破棄。共同体建設等。もちろん、聖書に基づきすべては成り立つ。逃げずにセッションを。エホバは偽善、卑怯を一番嫌う。君たちが真のクリスチャンなら何も恐れないはず。君たちは深く考察していないのでは。来る世とは、うまい話だけでは説得力がないぞ。でも仕方ないか、未知は神の領域だからだ。不思議だ。次から次へと謎が解けていく。愛と義を信じてさえれば段階に応じて明らかにされる。答えは神の意に引き起こる。叩けば時が来て門は開く。私に問うのだ。恐れず。そのときに私はすべての謎を解くだろう。エホバの言霊をじかに承ける。それがエホバの証人の唯一無二の名誉である。神は完全無比である。苦しみも肥やしに。完結へと。君

は神の義を認識したのか。神の子になるのを選択したのだね。アイディンティティを大事にして。君は優秀。来る世、王国建設に活躍する。神は志を捨てない人を愛す。金はいらぬみたいだ。大金はいらぬ。必要以外、欲望がない。金を意識すると体に不具合が起こる。愛と相反するからだろう。銭ゲバ、一番醜い。布施という喜捨が愛に直結する。神の国は大部分の人は入れない確率が高い。理想郷であり選別がある。博愛を抱く人が入る。人は土くれに神が霊を吹き込んで生まれた。命を奪うことができるのは神だけである。人の欲（金銭欲、所有欲）から解放されると幸せを実感できる。所有権の放棄。神の査定に適ったもの皆、善良で無欲。来る世、新世界は成り立つのである。来る世、人々はすべからず善良、無欲である。渴愛からは必ず諍いが起こる。自由、平和に向け志を大切に、アガペーを生み出し利他の精神で永遠の命を手にするのです。週明け、私の自筆本が富山大和（フェリオ）に並ぶと思う。興味がなくても購入されよ。まあそれも大事だが、また一度お顔を拝見したい。春の弥生は時間に余裕がありません。私は絶対心を捨てない。君達に、愛に対する優しさが浮かんだら、私は深い良心で一瞬に吟味する。現体制、パリサイ人の潔白は、幼子のような心、善意を傷つける。それは人の想いつまり人情の欠如からである。契約などのシステム、組織人に多い。今回の「幸せは逃げない」この書き物が、皆さまのお目に読まるころ、4月終末説が嘘八百だったか本当だったかが判別されている。しかしどうあっても私の愛の炎は消えない。俺にもわからないが、何か俺を突き動かす。金や時間、ロス、コストが意識されなくなった時、真の幸せを実感する。信仰に生きる。決して幸せは逃げない。あふれる喜びがある。来る世、存在する前提条件はすべて善良で善意に満ちており博愛の精神を強く抱いているかどうかにある。つまり聖霊の宮、神の御使いにふさわしいかである。そんな易しい条件ではなくもっと峻厳なものでないと理想郷建設は不可能ではないかと。心配ない。山口くんが選ばれているのだ。優しさと真面目それが一番、これで善いのだよ。パリサイ人からは愛は生まれぬ。「神の国」大部分が入れないと言ったが大勢の人に心を入れ替えて入ってほしい。期待、希望します。さんざん騒動の原因を作ったセックスは姿を消す。愛を忘れ肉体の享楽のみにうつつを抜かし墮落したものは多い。そして純粹で無垢な人たち、「神の国」そこには愛を込めた抱擁がある、もたらされる快感は計り知れない。この世は続くべきなのか、神の苦悩も続く。新型コロナウイルス、私の4月終末説が俄然真実味を帯びてくる。聖書は大流行を予言している。サタンは天に裁かれます。私は大量虐殺、行使の苦しみから聖霊の力により免れます。来る世、愛に満ちた神の国へと、希望が誕生します。貞操を守る。恋愛から結婚に向かう道程にある。正解である。

だが、一部の潔癖な人たちの条件ともいえる。そして因縁ふさわしき伴侶が待っている。常に美しき心が大切である。根気よく艱難に負けず生きよ。　なんで利口な奴ほど薄情で、ある意味ドンな奴ほど情が深いのかな。これを強弱という形で分ければ、聖書の譬えがビビットにくる。それは結果的に神の晩餐に招かれたのは健常者という忙しい強者ではなく、道端に寝ころぶしかない、人の痛みを知る障害者たちだった。なぜなら彼らは生活より愛を重くするからである。　組織に忠実なガバナンス重視の浅はかな蒙昧が各地に出没している。愛の伝播を阻害する。個人批判も利他の精神があれば正義になるのだ。人は愛で生きないと。

無駄死になのか。尾崎豊。この世は差別が当たり前。不完全な世界、不可能な「自由、平和、愛」の勝利を求めたから傷ついた。生存競争を倒すための争い。この矛盾を癒すのは、来る世を待ち、イエスを信仰するしかない。犠牲は善くないが、体制に歯向かう尾崎はあえて愛を知らしめ、最後まで抗い鮮烈に死に、カリスマとなった。彼はサタンの支配の中、自分のような人間は生きていけないと悟ったのだ。　私は祈ることで私の道をひたすら歩く。聖書は私が臆病者ではないと示す。拝金主義などと空虚な夢想到に走らず、愛という真実が絶対価値となる世が来るまで。私を信じ皆様、楽しみにお待ち下さい。　厳然とある階級社会。自由、愛のため抗う。だが勝利の意味などないのだ。すべては欲望に繋がる。自由民主主義の下、格差社会が確実に忍び寄る。階級の構図はわかりにくく革命も標的を見出せない。そしてとりあえず皆、平和を求めている。でも本当に平和かい。君よ、縁を信じて。正義を求める同志はいる。独りではない。　生老病死がなくなる限り生存競争はなくなる。この体制は揺るがなかった。イエス、尾崎、日蓮の様に一矢報いる。気概は大切だ。俺は聖霊に委ね、天の審理、裁きを支持し、永遠の命によって愛に包まれた神の国を現出させる。聖書の導きと南無妙法蓮華経によって。YouTube で島津亜矢のフルコーラス道頓堀人情を視聴してください。そこにある深い意識、意味理解できたら君はまだまだ捨てたものじゃない。　判ったか、俺たちの道が。道頓堀人情、その深い意味、意識、サタンの価値観、過剰な物質至上主義。恋は成就されるわけではない。権力に負けず、心、愛を温かく大事に。神の想いです。その時本当に愛する人は現れる。負けたらあかん、負けたらあかん。金や時間、コスト意識にとらわれている限り幸せにはなりません。なぜなら愛はその真逆にあるからです。山口くんなら解るはずです。素直に幼き日の価値観を思い出してください。冬の日、お父さんと各家を訪問した時のことを。

ソチは何を考えているだろう。意味のない名誉などではないだろう。ただ飼い主である私たちと平和に暮らせればそれでよいと思っているのでは。すべてにつ

け殺し合う人間は醜いなあ。 イエスはパリサイ人、つまり契約に代表される法律に縛られた組織人の偽善と冷たさを指摘し、糾弾した。私はそんな彼らを懐柔しようと思う。優しさと愛に満ちた者へと。どんなに無理があり困難だろうと。

終末は私の意思によって免れた。コロナウィルスは収束に向かうだろう。今年還暦を迎える。一年一年悔いを残さず大事に生きていく。今後もよろしく。地震、凄かったね。「終末の回避」は私の希望的観測だった。私がかねてから言っているように3月末から4月、終末は訪れる。最期の警告であり訓戒です。私につながる枝を絶たない。永遠の命が実らないから。聖書は信じよと語る。山口くん、本当に来る世の様態、形態を導き出したい。君たちの見解にはいつも気付きをもらってきた。ご教授よろしくお願ひします。22日(日)いかがですか。君たちのエホバを愛する気持ちに伝えたい。悪意からの作為がなければ融和へと駒を進めたい。譲歩にも思えるが希望への促しです。永久の平和のために。悠長な時間は残されていません。でも私に焦りはありません。すべては予定調和。判るものは自覚する。律法より信仰、組織より人情。つまり愛が真実です。22日あらかた終末への舞台は設定されています。聖霊は神である私を案じ天が裁く様相を見せます。来る世、君と共に幸福な日々を送れたら嬉しい。尊顔を拝したい。

紀伊国屋書店、棚を見てきました。私の書き物、ビニール袋に包まれ宗教書の場所に鎮座されていました。郷土の括りでも陳列されており謝意をスタッフさんにお伝えしました。結局、現在、一冊も売れていません。誰かこの世、自然界の醜さを世に啓発することに協働してくれるものはいないものか。いつも宗教が必要です。俺は負けない。未熟な俺を導き奉行するのは聖霊である。私はただ神の道を行く。神イエスにもわからないことがあるのだ。女心からくる恋の行方結末。悲恋か成就か、引け目を持たず誠心を尽くすしかない。美しい心に聖霊は可否を判断し微笑むのだ。仏陀は妻子をも捨てた口のうまい乞食と非難する奴がいる。そして彼の言葉は人を救う。その智慧、慈悲は人々を聖霊の宮へと導き神の御使いとし永遠に神の国で生きる約束へと繋ぐのだ。

「貫井へ」

日蓮正宗の三大秘宝に基づく南無妙法蓮華經のみが正義。私を盛んに精神の破綻した分裂者だと罵る。私は「自らの正当性を打ち出すために人を差別し傷つけてもいいのか。君自身が生活に傷ついて心に余裕のない証拠だ。侮辱への反応はお互い様だ。私を怒りの念を持つ俗物へと貶めようとする。汚い手口は使うな。君の返信を見たが、キャパシティーをはるかに超えた私の思索を精神の破綻としか捉えることができない。君の器の容量。そして野次のような愚かな差別的表現、最低だな。俺は誠意の塊。侮辱には普通に対応する、それだけ」と答えた。

「貫井に送ったメールです」。

日蓮はかみでも、ほとけ、でもいいのだ。絶対愛、暖かい気が示現したもの。もっと自由な発想をせよ。信じたい対象とは何なのか。貫井お前には隠せない寂しさが取り巻いている。奇行に走る前に素直になれ。温かさを出せ。理屈などいい。それが南無妙法蓮華経だ。幸せになれ。友に対し意味のない攻撃、中傷誹謗しかできない。落ち行く先は孤独しかない。仏とは何か、自問自答してみたまえ。俺という枝を切れば実はならないぞ。目指す姿つまり「覚り」を発見できないぞ。大腸がんは心配するな。必ず治る。(治らなくてもいい。求めているのは不動心、平常心)。まるで禅の世界だな。冷淡でつまらん。無感動、無感覚。慈悲心からは遠く離れる。捨て猫一匹飼う。その愛。禅は人としての思いやりをなくすおそれ大である。でも君にも一理ある。自分に厳しく、他人に優しく。だが人の想いが解らないと支持は得られないぞ。貫井、結局自分だけのことか。禅天魔と日蓮は言う。「析伏」という菩薩行をするなら親からもらった大事な体、粗末にする感覚は善くない。感謝を持って、南無妙法蓮華経これしかない。確かに病に向かう姿勢としては立派だ。だがそれで幸せか。病魔に負けぬ心構えとしては、たいしたものだ。だが南無妙法蓮華経は立派な人になる為にあるのではない。大乘仏教、皆で幸せになろうというものだ。当然、現世利益もある。即身成仏。病魔退散、私は祈ります。もとは念仏の恐ろしさを、勉強する暇もない庶民に知らせ、現世利益を含めて正義を覚らしめるために南無妙法蓮華経はあった。誰でもできる安楽行、大音声。日蓮は蒙古に対し戦地に向かう信徒を前に、己の無力さを悲嘆しはらはら涙を落とした。まさに日本の眼目である。情け知らずに人は寄らない。般若という智慧も情けに光る。あえて言うが貫井、お前は未熟だ。もっと人の想い、誠を知るべきだ。一人の女性に入れあげて追ってみよ。何かが見えるから。南無妙法蓮華経。判ったかそうか。ありがとう。ありがとう。一度、俺の家、仏壇参ってくれないか。君は本住坊より清廉だ。お布施ははずむ。我が家の本尊には力がある。大腸がんは良くなる。冗談めいてはダメか。頭、固すぎだ。ふざけたようだが君の読経は素晴らしいということだ。信念を持つ奴が集まれば見解が違えば必ず争いになる。貫井、目に見えない愛の摂理の存在を知ろう。私は偽善者には厳格だ。智慧、慈悲、情け、想い大切。町の電気屋さん、自動車屋さんなど個人事業主の話聞いてくれ。彼らの頭の回転の速さ、外交力、社交性、行動力。そしてすべての生業はそこに健全性を認めるから営めるのだ。宗教やっているから偉い。それは違う。安楽になる為、世間の価値観から逃げるのが宗教の本道だ。君の信仰はただ自分の浮揚の為にある。大乘仏教は皆で暖かな成仏へ向かうものだ。君はいつも君の容量でしか思索できない。心を更地に

して人の言うことを真剣に聞けということだ。(君は自身をだまして)と。そっくりそのまま返す。貫井、俺みたいに愛を正直に訴えてみろ。まあすべては諸法無我。周りをよく見ろ。自分という存在が見えてくるだろう。生活から離れた浮世離れ、君は出家ではないぞ。世間との葛藤は見えるが、なぜそう特別に一目置かれたい。「自分だけ」つまり自己中心はどこに行こうと評価されないぞ。自分だけのナルシズムは周囲には関係がないからだ。そして利他の精神で慈悲が人様に対し必要になる。菩薩行、日蓮は愛。それが真実だ、南無妙法蓮華経である。自己鍛錬、修行が必要だと言う。現実逃避せず、少し街を闊歩せよ。なにか見えるから、愛かもしれないな。南無妙法蓮華経。それだけだ。仏法を固定したものにしてはいけない。柔らかく愛をもって教えは説かれる。機根に対し方便がある。君はすべからく対決的で、修羅道に行くのだな。私には君の言っていることはドグマとしか捉えられない。日蓮正宗の教義についてなら本住坊と話したらどうだ。本住坊は君の師匠筋で宗門の仲間、俺よりうまく力になれると思うが。理由がないならただ中傷誹謗する不愉快なものは送らないでくれ。顕正会の雄さんとだったら話が合うかもしれないなあ。偏執的な思考回路がそっくりだ。南無妙法蓮華経。宮沢賢治のように周りが見えなくなって自己犠牲に突き進んでいく。かつて馬鹿をやってしまった俺。仏をめざしたつもりがそれは自己満足の域を出ず、縁覚にもなれない、周りを悲しませる愚行でしかなかったのだ。皆で成仏。犠牲はいらない。それが大乘、南無妙法蓮華経である。明るく素直に温かく。貫井寒くなったな。元気か、富山大和(フェリオ)に私の自筆の本が並ぶ。厚い文庫本で。君に送るには料金がかかりそうだ。まあいいけど。また連絡をくれ。体、大事に。南無妙法蓮華経。仕事はしているのか。俺はこれが仕事だ。商品だが贈呈するよ。20日にできてくる。さてこれから俺はどう暴れる。弱気になるなと聖霊が叱咤する。俺の最終目的は愛による世界征服だ。これからの方法論、戦略を考える。まあ楽天主義に生きる。悪くても死なず、と聖霊が関与する。南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経 功德の山 ありがとう。南無妙法蓮華経は大宇宙に広がり満ちている。遍満している法であり、イエスの言うアガペーである。この慈愛こそ古今東西融合の思想、真の義につながる。神である私が説く。煩惱とは違う、夢に向かい、明るく素直に温かく歩もう。最近たどり着いた。一般の人間たちは自分の良心に正直になれず愛という信仰が優先されるべきところなのに、そこから外れて富と名誉、善と悪、心の中、堂々巡りを繰り返すのである。欲が絡むからである。俺は布施を促すため戦略を立て世間に向かう。

(欲望とは自利、エゴにつながる)。 (想いとは利他、アガペーへと向かう)。

精神科閉鎖病棟で地べたにはいつくばり生きぬくという経験をした。私はそのことを本当、感謝している。劣悪な環境においても自分のベクトルを信じ、絶望はしなかった。今、自分に恐怖、緊張をもたらすものとは因縁がない。聖書のお達しで本の価格を1500円にします。本当に解る人を買ってほしい。俗的に言うと商品に重みが出る価格。真実、ほしい人は値段が関係ないそうだ。実は刊行で一番悩んだのが価格だった。「安いと人は買うぞ」。今も頭の片隅にくすぶっている。迷いはサタンの仕業。本当にほしい人なら只であけてもいい。いずれにせよ、ふるいにかける必要があるみたいだ。興味深いと思った人なら。お前は（そんな人はいない）と、失礼だな。一人ぐらいいるさ。また君とは違う常識人がいる。（救われるのは唯一、三大秘宝の南無妙法蓮華経しかない）か、窮したらそこに逃げるのだな。いつものパターンだ。君は、日蓮を悪しく、敬っている。そこがいまひとつ信頼できぬところだ。それだけ君は応用が利かず、底が浅いということだ。世間に対してもたらすものは私とは雲泥の差がある。どうだ、詩的アンソロジーだろ。君には解らん。（日蓮の法門は浅きようだけれど、はなはだ深し）俺は日蓮だぞ、知らぬわけがなからう。ごめん、今、女医さんのこと考えていた。「私は貫井のドグマはいつものこと、平行線になるので話を変えたかった」。もう退きごろだってね。客商売、亭主と病院経営で結託していたのではないかと、彼女に対し懐疑まで引き起こす始末。汚い話だな。話を元に戻す。本をプレゼントする約束だ。反古にはしない。友情は育たなかったと思いたくない。脈絡から言って君は本が提供されないと誤解し私を侮辱しに来ている構図だ。それを踏まえての話。今の段階での、私の本の否定的価値づけは悪質だ。痴話は笑い話にされる覚悟。侮辱の理由は何だ。嫉妬、妬みか。一読もせず否定する。私の語気が荒くなるのもわかるだろう。喧嘩を売っているのか。三文学士の駄弁じゃないぞ。理屈を考えよ。俺は無礼な偽善者が理不尽を引き起こすのが許せない。聖書は押すが、今の時点で、自筆本、自信満々の面持ちにはなりえず、高圧的自己中心な君とは違い、謙遜が先に来る。手塚治虫氏さえ世間の評価に悩んだ。ある意味、謙虚だ。友なら、私の強気、安心につながる順化を期待したかった。俺はあえて独善的といっている。だからこそ自らの言動を聖書で検証する。疑念、懐疑、そして人は真実の信仰に至る。妄信は戒めよ。良心と主体的な感覚を大事に。人の優位に立とうとするな。今日は少し絡んできたな。ことをなすとき司馬遼太郎は記憶力と根気が人間には大切と言っている。だが愛の世界征服は自然と安楽で成功する。そして君は真理をめざすとき、かなり不作法、自己中心的だぞ。そうか出版、応援してくれるか。ありがとう。少し自信喪失気味だった。侮辱には反応する。神だからな。イエスは寛容で怒らなかつた。しかし偽善者は

徹底してつるし上げた。現実、出版物の業界は厳しい。縁があれば、我が書き物も生き残っていく。自然淘汰。まあサタンとの格闘だ。君は信心が強いと言われたいか。貫井どうやら俺は死なないみたいだ。携帯、俺が死ぬというフレーズを送信しない。勇気がわく。不老不死は現出する。俺が君を値踏みしているのを知っておけ。君は馬鹿にされても何にも感じないと言う。だがあえてなぜ人を傷つけるのか。君が生活の中で傷ついている証拠だ。受ける俺は裏切りかと、失望がくる。素直に温かく、神の隣人獲得の為、そこに日蓮の正意はある。君は慈悲心のない男だな。人は相手にしないぞ。俺はもう少しルンペンだ。所詮君は自身に固執している。利他に徹するとき真理が見えるだろう。南無妙法蓮華經。素直に利他の救いが自らの救いになると思えるのが南無妙法蓮華經である。病棟にいるのか、主体性をなくし利己的な野心で仏法と称したものを振り回す。日蓮は悲しむぞ。君の寂しさを思っていた。立派だと褒められるより、一緒にいて感じが好い。それが真の南無妙法蓮華經の信者だ。君は君の南無妙法蓮華經を見続けるしかない。俺も俺の南無妙法蓮華經を行く。効果は俺の方が上みたいだ。説得力が違う。なぜか、それは君が君自身の南無妙法蓮華經を、何度も言うが主体的に把握していないからだ。自らのおかしな不動心という冷酷さを得るために、奉安堂の大本尊だけが真実と、南無妙法蓮華經の意味を矮小化したからだ。南無妙法蓮華經、ただ本質、利他の精神が大事。菩薩行、そのとき覚りは開ける。本尊はすべての大本、すなわち真如にある。わしつまり絶対者日蓮が決めたのだ。わしの言う南無妙法蓮華經は各位の宿業の方向性だ。君の歩まねばならぬ人生の道にある。ガンバレ。君は既成概念に凝り固まっている。南無妙法蓮華經は愛である。南無妙法蓮華經で南無妙法蓮華經だ。全宇宙に遍満し各位の心にも広がり幸せをもたらす。(戒壇の本尊を、ただ拝むだけ)と申すか、偶像崇拜。頭、固すぎで単純だ。主体性の放棄、ドグマに縛られカルトにはまるわけだ。しっかりしろ。人生から逃げるな。ま、そう腹を立てず、縁を大事に。仏教の基本に帰る。また見えてくるものがある。われらが知り合えたのも、釈尊、日蓮という仏様のおかげだ。ありがたい。君の返信を検証してみたが、君のキャパシティをはるかに超えた私の思索を、精神の破綻と差別的用語で侮辱した。最低だな。俺は誠意の塊、侮辱には普通に反応する。(三大秘宝と南無妙法蓮華經が唯一無二)。そのことの為には人を差別し傷つけていいのか。それが法華經信徒か。実は君が人生に傷ついている証拠だ。人を思いやる余裕がない。侮辱に対する反応はお互い様。わざと傷つけ寛容性の値踏みをする、汚い手口は金輪際使うな。神を試すことは誰であっても許されない。貫井、俺は君と交流を持ちたくない。聖書が救済をほのめかすが、神を敵にしないで友として敬意を抱くことが君にで

きるか。如何なる時も言っただけの善いことと悪いことがある。君という人間の本質にかかわる。君はただ人に偉いと言われただけの俗物である。如何なる時も無神経に差別、偏見で人を傷つけてはいけないのだ。私には怒りも恨みもない。ただ事実を認識し、何処に悪が所在するか、君に承知してほしいのだ。意図的ならかなり悪質である。戒壇の本尊より自分の心を見つめよ。かつての友として最後の忠告である。南無妙法蓮華経が泣いておる。

「公務員の友人」

人の心を察し配慮する。責任もついてくる。来る道、大変だったろう。仕事が楽しいか。調整力を見せつけられるか。でも本当のお前はどこにいる。そのまま死にゆく覚悟か。俺にコンタクトをとることが重大な瑕疵につながるのか。お前は公人か。推量しても想像する君の了見は保身からは外れない。変わらぬ友と信じたい。素直な気持ちだ。俺は君と違い自由だ。不快なメールは切り捨てるのか。俺は羨望からではなくその薄情さに憤りを覚えている。確かに俺は暇つぶしに送っている。お前は不愉快か。俺との友情、君にとっての悪に蓋をして当たり前の顔で世間を渡ってほしくない。来る世、自身を捨ててこそ立つ瀬もある。付き合う人間も査定に含まれるのか。君の回心はまだまだ先だ。そして俺からの逆化が君を成長させた。送り風より向かい風だ。君は人格円満、温厚、配慮、調整力、確実性で評価を得たのだろう。後は自然体でいることだ。「いつでも辞めてやる」。腹に思うこと。覚悟がないから酸いも辛いも知った桜木町の場末の Snackbar、年寄ママに笑われる。なぜ侮辱に怒らない。俺の持論は愛に対する責任はあるが、組織に対する責任感は無くていいということだ。自分らしく生きるには邪魔なだけだ。実は責任感と声を大きく発する人ほど、陰で談合するなど、不正に走り責任とは逆な生き方をするのだよ。俺の最終目的は、愛による世界征服だ。これからの方法論を考える。暴力はふさわしくない。当たり前だ。まあ楽天的に生きる。ネットの中、火が付けば早いぞ。IRについての新しい法律。君たちは公正さと透明性を求められているのだね。またいつか意思の疎通ができ打ち解けられる日が来るのを待ちます。変わり変わらぬ友として。ご自愛ください。新型コロナウイルスに、気をつけろよ。市からのお達しを待っていては後手になるぞ。上は責任をお前にかぶせ、トカゲの尻尾きりをするだろう。お前のことだ、抜かりはないだろうけど。オリンピックが中止になれば安倍政権の責任と、鈴木総務は言う。私の予言通りである。地獄、餓鬼、畜生、修羅。まだ解らないか。価値観替えろよ。神からのメッセージだ。君はパラサイ人だ。

「貫井からのメールも紹介しておこう。()の中で現在から私の見解を述べる」。

布施をして功德があるのは法華經の行者に対してだけだ。各願寺はそのうち破折に行こうと思っている。大日如来は架空の仏で、釈尊の「大日經」に登場する。だから架空の仏を本尊にして釈尊を蔑ろにする真言宗は間違っただけなのだ。

(釈尊の大日經。大乘經典である大日經を単に否定すれば法華經も否と言われる。大日如来を密教は架空の報身とは違い、一閻浮提にある法身だと言っている。布施は己の所有欲、金銭欲から離れるところに功德がある)

日蓮宗は日蓮正宗の最大の敵だ。全く持って非なるものだ。大聖人様の仏法を受け継いだのは日興上人ただ一人。その血脈を受け継いで今は、第68世日如上人のときである。信じているのは日蓮大聖人様ただ一人だ。それ以外はまさに邪師でしかない。キリストも、自分自身さえも。

(自分の意思をなくしドグマに依存する。釈尊の一番危惧されたことだ、主体性はいかなる時も失ってはいけない。マインドコントロールとしか思えない。君は正しいと思ひ込みたいのだ。かなり盲目的で浮世離れしている。ある程度冷静に俗的になるとき自分を取り戻すかもしれないな、人間らしく)

参考までにまで行っておくが釈尊は日蓮大聖人の南無妙法蓮華經で仏にしていたのだ。つまり仏の種を植え付けられたのだ。そして菩薩の行を収め、長い時間を得て仏にさせていただいたのだ。つまり釈尊の師匠は日蓮大聖人なのだ。

(教本通り、日蓮がびっくりするかも。過去に提婆達多が釈尊の師であったことが法華經にある。だが釈尊を蔑ろにし、鬼の首を捕ったような物言いは善くない)

自分を信ずる、自分の足で立つ、何ものにも依存しないというけれども、見方を変えれば自分に頼っている自分に依存していると捉えることもできるが、違うかな。(かなりの詭弁だが、私が言うのは自らを信ずるとは外部からの関与があっても善への方向性を見失わないということだ。君は依存が善くないと認めるのだな。そして君は日蓮の下種を信じるという自分自身に依存している)

なるほどそれも一理ある「涅槃經」に己を師とせざれとある。つまり釈尊の教えに従いなさいということだ。(君の崇拜する、日蓮大聖人様はどこへ行った。俺は釈尊の教えを十分、領解している。君には根本仏教、仏陀の智慧と慈悲を理解しようとする意思がない。勿論、末法ではすべて南無妙法蓮華經に意義があるが)

もういいわ。真言宗の寺なら本尊は大日如来のはず。阿彌陀如来ではない。真言の曼陀羅の中に西方浄土の阿彌陀はいないはず。阿彌陀如来は釈尊の「觀無量壽經」に出てくる架空の仏。「大日經」の大日如来とは全くつながりはない。

(すべては大乘經典であって釈尊の肉声からのものではないという事実。しかし仏陀の教えは歴史の中、底流して大きく花開いたとも。阿彌陀は無量仏として真

言の金剛界曼荼羅の中に5仏としてあるのは事実である。君はときたま迂闊を犯す。論破が析伏にあるなら、かなり有効から離れるぞ)

まあいずれにせよ、そんなものはでたらめの宗教だ。唾棄すべきものだ。

(真理を求める姿勢がない。自分さえよければいいのである)

大聖人様の仏法を実践すれば何が正義か、何が邪なのかおのずと判ってくるのだ。

(すべて因縁の世界にあるのだが、これは完全に洗脳だ)

エホバ殴り込みもいいが、それならそれに見合った報酬が欲しいの。それをかなえて下さるのがご本尊様だ。ただの殴り込みなら馬鹿を見る。違うかい。

(自筆本を投函しその後の雰囲気を感じたかった。日蓮とイエスの一致、意識をうながしたい)

要するに君の自筆本がどう評価してもらえるかに重心が置かれているのだね。そんなことにエホバなど利用しなさんな。もっと鑑識眼のある人を選ぶべきじゃないの。成道の道はひとつの法則に限られている。あっちを向いたやつも、こっちを向いたやつも同じように行動してもらう必要がある。それと人間の個性は別の問題だ。もしや君は食えるときお尻から入れないだろうな。

(俺が食って君が糞をするのか。アガペーという方向性さえ誤らなければ人はそれぞれ個性を活かし自由なのだ。訪問は彼らの人間性の確認のためだ)

どうやら君のエホバに対する対処の仕方と僕の対処の仕方が食い違っているようだ。あくまで大聖人の析伏精神に則った方法において行動すべきだ。よく考えてみてくれ日興上人は、遊びや雑談を惜しんで広宣流布に励みなさいと言っている。これだけは何を差し置いても急がねばならない。僕が言っているのは、心構えのことさ。だからいざ実践となれば、それこそ相手の機根を見て対応させてもらっている。(すべて自分自身、自主的に愛を保つことが、やがて神の意志と一体になる聖霊の宮へと繋がる。勿論、心構えも持つことが大事。ただ余裕をなくし、きゅうきゅうするなと私は言っている。常楽我浄だ)

おいおい自分自身云々が引っかかる。これが一番厄介なものなのだ。涅槃経に曰く「自分の師とはなっても、自分を師としてはいけない」とある。世の中の不幸は、自分自身の考えで行動する人間がいるからなんだ。(不完全な人間を取り上げるな。私は聖霊の宮だ。私の主体的な行動は天の意志からきている。私は神である。同様の思考回路を持つものは成仏する。そして何度も言うが、考えではなく善に向けての愛の主体的方向性だ。それこそ自分の師になるということだ。自律と甘えか、大事なこともかもしれんな)

つまり「我」に囚われちゃいかんということさ。それを踏まえての主体性なら問題はないのだ。むしろ大いに結構なことでもんもん伸ばしていった方がいいと思う。

(さっきから俺は「我ではなく行動指針、方向性である」。そう言っている)

法華経だけは釈尊の真実の教えなのだ。少しも方便性を帯びていない。まあ要するに君は誰も指図されないでわがまま勝手に生きたいのだろう。違うかい。

(法華経には方便の大切さが示されている。法華七喻。誰もが何処かのものに指図を受け結果的に自分の意に添わぬ悪に走らされる。これはいけない)

析伏は脅迫めいたものでも恫喝めいたものでもない。われわれのすむ末法では、もう相手の、間違っただ意見など、わかったように頷くなんてことは出来ないのだ。謗法者には全力で立ち向かわねばならない。君も析伏をやったらい。不可思議な出来事を経験するから。(君にとって俺と遭ったことが一番の不可思議だろう)

君の文章は難解だ。僕は文系の人間でないからもう少しかみ砕いて説明してくれると嬉しい。実は自分は大腸がんで一月ほど入院していた。手術をしてちょうど一月になる。今は抗がん剤を服用している。君だけには知らせておこうと思った。(俺を神と信じろ。病は治る)

気持ちはとてもありがたい。感謝する。だが、俺は日蓮正宗信者だ。人が人を信ずることは尊いことだ。この世で一番美しいことだ。僕になくて君にあるもの、それは人間に対する温かい眼差しだ。一生涯それを持ち続けてくれ。

(分かり合えた、いい奴は皆先に逝くんだよ。さみしくて仕方ない)

昔も今もいい奴は早死にだよ。南無妙法蓮華経こそ、今世、人界の思い出だよ。君には少しだけジェラシーを感じる。本音だよ。だが君の精神は少し病んでいる。だから君の著作は一般社会には受け入れられない。南無妙法蓮華経によって矯正していくなら精神は正常化して著作物は受け入れられるだろう。ただし三大秘宝の南無妙法蓮華経だが。質問の当体とはイコールという意味だ。

(当時、日蓮の立正安国論は世間に受け入れられベストセラーになったかい。現代は短絡的に貧病争に効果がありそうなものが人目を引くのだよ)

その著作物を早く僕宛に送ってくれないか。一応知っておく必要があるから。楽しみにしているから。口を酸っぱくして言うておくがいわゆる「神」は存在しないのだ。仏教でいうところの神とは、法華経の行者を守護する諸天善神を言う。

(私の言うのは聖書の神、エホバ、なんでもいいのだ、久遠元初の暖かい気である。つまりイエス、日蓮である。神という言葉にこだわってはいけない。また釈尊成道においての梵天勧請の譬えもあり、法華経の世界には神々が勇躍している)君の頭脳の回路は破綻している。南無さん。何度も言うよ、君の頭脳は確かに破綻している。(暴言に対し彼の冷静な自省を促す為「南無妙法蓮華経」と送った)

やっと落ち着いたね。その感覚を忘れないで。病気が治る。治らないはいつでもいいのだ。何ものにも動じない境涯を己の心に築くことを目標としている。今、析伏に回っている。詳しいことは後から話す。己ときたら禅宗と決めつけるのは早計だ。何ものにも動じないということは、言い換えれば煩惱に振り回されないということ、そしてそれを般若、解脱、法身という功德に替えていけるということだ。君も三大秘宝の南無妙法蓮華経をやってみればわかってくるのだが。自分で言うのもなんだけど、この宗教は誤解されやすい性質があるんだ。だからこそはっきり言いきらなければいけないのだよ。

(まさにドグマ、独善的教理である。反省どころか一層強調的になる。人間的感覚が欠落しているカルトへの依存の認識すらない)

だから君の頭は破綻しているというのだ。こんなことを言ってくるようじゃ仏教の何たるかを全く理解してない証拠だ。日蓮正宗信者は、「三大秘宝」の南無妙法蓮華経しか拝まない。以上だ。宗教だけでなく、一般に何かを信じているか、強い意志を持っている人は絶対譲れない部分がある。そこら辺を理解してないと強烈なしっぺ返しを食らうことになる。だから逆に言うなら、付き合いやすい人間は何の信念も持たない薄っぺらな人生を歩んでいるだけなのだよ。

(妄信は善くない、君がそれを信念と呼べるほどに深く広く他の思想を考察し学修したとは思えない。互いに独善的とかたづけるだけでいいか。私は神の国、永遠の命という功德を提示している。資格を得た者たちの境涯だけが仏への正当となる。君の偶像崇拜は所詮独りよがりな自己満足である。多分君は不動心、何ものにも囚われない「覚り」と言うだろう。今、幸せかい、仏とは人としての温かさを失ったとき意味はなくなり、かえって仇となる。思いやりは消すな)

まあ、僕が目から見れば君は君自身をだましてその日その日を生きている。その偽りの日々を何とか見ないよう見ないように自分自身で編み出した理屈でそれを正当化している。昔は、愛という言葉は違った意味でつかわれていた。つまり、言い換えれば、慈悲とでもいおうか。君のその大好きな愛は、大聖人様は一幅の曼陀羅として御図頭あそばされたのだ。しかして、愛はそのまま大聖人様なのだよ。私は日々、少しでもそこから愛を求めているのだ。どうも君のメールを見ていると、文章に一貫性がない。色々な考えや思想を一幅に書こうとするから話にまとまりがなくなるのだろう。だから一つの断片を理路整然と文法に気を付けて説き聞かせるようにしないと相手に通じなくなってしまう。いわゆる精神分裂病の患者のような作文の様になっている。この病に罹患していると容易に判断されそう。手前味噌ではないが私の文章は、読みやすくてわかりやすいでしょう。これは一番手短な愛ではないでしょうか。判りにくく、読みづらい文章には

愛はそこから感じませんよね。どうも君の考えていることが分からない。つまり文章が支離滅裂なのだ。君の思っている半分も伝わらない。（「君の考えていることの半分も伝わらない」とは一応は伝わっているのではないか。先に私は彼のリテラシー「読解力」の弱さを自覚したので「メールは、字数制限があり、思いを詰め込もうとするので少し難解になる」。彼の低姿勢に反発はやめ、遠慮がちに、また理解するだけの基礎的な領分の発達を期待し、あえて協調した経緯があった。するとドグマ（独善的教理）をぶつけるしかできない彼は、私の及び腰とみて、そこに付け込み差別的表現で私を容赦せずつらつらと侮辱するに至った。彼は私のサイトの文献には目も通さず、ただ意味もなく敵対的に侮蔑してくるのである。私に怒りはない。攻撃的で対決的な彼に、天はすでに罰を与えていた。疾病はどうなるだろう。言葉の一貫性という点ではイエスも釈尊も文字は残さず自由自在な対機説法であった）

なんでそんな話になるのだ。君は何をを考えているのかサッパリわからない。

（自分勝手な不愉快なものは送ってほしくない、自分を騙しているのは貴様だ）何を言うか、不愉快なメールをもらっているのはこの俺だ、この馬鹿者が。

（喧嘩を作為的に売ってきている。まともなものが友人に送るものではない）何を言ってもわからない者にはいろいろな角度から迫る必要があるのだ。どうやら君は人に馬鹿にされていることに敏感に察知する傾向がある。これは自分に自信が持てないことの表れなのだ。僕は人から馬鹿にされてもどうってことはないよ。自分に自信があるからさ。なぜって。すべては大聖人様が守ってくださるからさ。この世の不幸は、邪義、邪宗の害毒が原因です。君の思想や考えも邪義の範疇に入るわけです。つまり、日蓮大聖人の仏法に沿った生き方をしない人間の意見などいくら僕が聞かされようと何とも思わないし、この人かわいそうと思うぐらいが落ちなんです。残念だが、僕もルンペン生活している。慈悲心は折伏しているときに僕の命から湧現してくる。これは大聖人様の命なんだ。（独りよがりな、一つ覚えのドグマを振り回し続け、散々人を侮辱した挙句、現代の宮沢賢治とでも言いたいのか、つまらぬ争議だ。卓上にあげたのは貫井である）君の南無妙法蓮華経はニセモノだ。日蓮正宗の「三大秘宝」である南無妙法蓮華経だけが本物だ。まだ君は本尊に迷っているのか。空中に向かって南無妙法蓮華経と唱えても無駄だ。必ず対象物が必要だ。それはなにかというと、日蓮正宗富士大石寺にある戒壇の大御本尊だ。よく肝に銘じること。もう、これ以上君という謗法者の与太話を聞かされてもこっちは何の得にもならない。よってこれからは用事だけをメールしてもらいたい。（最後は自ら蜘蛛の糸を絶ったみたいだ、エゴに固まれば人の話に耳も傾けない。私の言葉を信じれば救われると叫び

たい。「信仰があれば私に倣い聖霊の宮となり後、来る世で神の御使いとなれる」と愛を向けるだけだ。意義、理由もなく凝り固まったドグマをもとに、ただ論争を有利にするため善意の人を攻撃、侮辱する。貫井は悪だ。「析伏」、機根に対してと言うがいつも安全圏から柔和なものへ作為的に洗脳を仕掛ける貫井、素直に相手を尊重する人の気持ちを判れよ、それが思いやりだから。大乘の精神だよ。そして人を大切にすることこそ人に認めてもらえるのだ。寛容の精神欠如だ。悪態の垂れ流し、己の爽快、ストレス解消の為、君の「析伏」は子供が花火をドキドキしながらあげているのと同様だ、俺は神通川で大きく打ち上げる)

「貫井へ」

お前のメールある意味、俺を侮辱した点で興味深い。仮名でそのまま公開したよ。人目にさらさないのはもったいない気がした。そして本の贈呈、祝い金一万円包んで、俺の家まで来い。メールの開示は俺の方の弁舌だけでは君に対して不公平だと思ったからだ。俺と君が一致するのは南無妙法蓮華經の唱題だけだ。生まれ育ちが人格を形成する。侮辱は許されない、虐待の行使へと繋がってゆく。相手にしない手もあったが、本尊観の違いを明確にさせておきたかった。私は関与されても君の影響は受けない。大人なら当然、大勢だ。私はあえて君と付き合い対応、反応した。善意から私にきつい言葉を吐いたつもりでもそれは嫌われるだけで自己犠牲にもならない。そんな生き方ならもうやめた方が良い。まあ君の人生だけど。「聖書に導かれて南無妙法蓮華經」自信は揺るがない。君はまず自分だけの成仏を宗門から訴える。私は万民の即身成仏の為の安樂行、南無妙法蓮華經を广泛宣传する。妄信につける薬はない。そこを否定されれば君の存在自体の否定につながっていくのだろう。頑なな君の成仏は機が熟していない。真理を求め姿勢を保ち法から外れてはいけない。法華經如来壽量品第十六。良医である父は正気をなくした子に対し、姿を隠す。後「父、死す」の一報を知らせる。困った子は父の処方した薬を飲む。そして病は癒える。父はまた子たちの前に姿を現す。法華經に方便品。仏性、開示悟入の教えがまさに説かれようとするとき「俺は覚っている」と席を立った驕慢な比丘たちがいた。舍利弗に釈迦如来は「また機会が来る」と。それが涅槃經へと繋がって行く。機根と時宜がうまくマッチしないと思想は伝わらない。ただ言えるのは君が僕に攻撃し吐いた暴言、雑言、それは君に跳ね返り、その自分勝手さも因果応報としてその身に至る、ということだ。そしていつも和を保とうとしない君の作為は見苦しい。好き勝手にわがままに生きたいのは君だろう。「析伏する」と息巻いているが人に脅しをかけるだけで何の成果も上がらない。それだけの徳が君にはないからだ。人を君の独善に巻き込もうとするな。私は私の良心と自覚により人を傷つけず教えを説くつもり

だ。何度も言うが機根が育っていなければ、暴言は相手に対して不安を植え付けるか、恨みを買うだけのものでしかないからだ。垂れ流すように私の寛容に付け込み、許されざる侮辱、中傷、誹謗を加える、言語道断である。挑発に乗らない私に喧嘩を売るのは君が弱く寂しい証拠だ。ドグマを押し売りする君、私にはただ歯がゆい現実がある。　　温かい人間になれ。そんなに偉くなりたいか。傷つくるのを恐れているのはお前の方だ。優しい、暖かい、宗教はそれがすべてなのだ。人間らしい感情、情緒からの思いやり、これは恥じるものではなく、覚りなど吹っ飛ぶほど一番に大切なものだ。それを君に告げよう。俺はまた友人を失った寂しさでいっぱいだ。　　癌になったのなら「怖い、怖い」と泣けばいいのだよ。そしたら人は「俺も癌になって泣いてもいいのだ」と思うから。そこからだ、それが布施、慈悲だよ。　　また神仏が善きことを常に抱く私を楽園へと誘って下さる。だから心配ないと信じる。唱題以外、自力の特別な修行など救われに対し全く関係なく、かえって邪魔になる。「俺はこんなに他人とは違い。偉い」驕慢の極致である。　　お前には今、解らぬかもしれぬが、法華経信徒とはただ愛する人の無事を祈り、仏にすべてを委ね、南無妙法蓮華経と唱え「すべてが善きものへ向かうこと、神仏に祈願します」。これでいい。そして俺は決して善なる自分は捨てない。　　貫井、俺は永遠に続く境涯を自覚しているのだよ。そして聖霊の関与。常楽我浄「いつも楽しく美しい」崩れはせず保ち続けている。誰が何と言っても私は聖書のキーパーソンであり、つまり神エホバであり諸天善神の意思に裏付けられた仏、日蓮なのだ。貫井、お前の悪辣な向かい風に吹き飛ばされるほど俺はやわじゃないぞ。心ある皆の衆の為、神の国を現出させなければならぬ。永遠の命をもたらさなければならぬ。だからこそエホバであることを表明しているのだ。すべて確実性、信用性、愛の成就の為。　　君の身を案ずるが残念だ。遠く離れた気がする。君はやはり俺を富士大石寺に連れ出す為だけの因縁だったのだなあ。ありがとう。戒壇の本尊より君に感謝している。ただもう自分を偽るな。小心だから正直に口に出せないか。幸せになりたいのだろう。覚ったからと言って楽しいとは限らない。独り山頂か。君が目指す境涯ってやつはかなり独りよがり寂しいぞ。心あるものには哀れとしか思われぬ。自分に素直になることだ。愛ということをもっとしっかり考えてくれ。疾病の縁を大事にして。　　どんな悪態をつかれ、また詭弁を弄されても判るやつには解っている、どこに暖かい真理の風が吹いているか。病魔退散すること祈っている。ただこの不敬、天が許すかどうか。君がゆるぎない境涯などを得たら、「析伏」という菩薩行を為さないとまさに死を待つだけになってしまうな。俺との経緯から永遠に唯我独尊と決め込み神の国に入ることもできるかも知れない。その時は人付き合

いに欠かせない程度の良識と礼儀は持っているよ。甘えの演出はするな。奇人からは卒業していることを祈る。傍にいる奴は辛い。面倒くさいからだ。作為的に吐く言葉も気を付けよ。人を傷つけ、侮辱せぬよう。南無妙法蓮華経。お前の不安、辛い気持ちを俺にぶつけたのだろう。だが仏の俺も切れば赤い血の出る人間だ。侮辱には反応する。それが普通、そんな人が大勢だ。だから「覚り」を振り回すな。「析伏」自分の信じるものを否定されるとき、皆、平気な顔をしていても腹の中は煮えたぎっている。それが世間だ。お前にえらく関与してしまったな。また宗門に依存し、狎下の仰せなら人も殺すのか。オウム真理教の殺人と一緒にだ。そして人界で孤立するのが嫌なら解ってくれ。お前に最後渡す、贈る言葉だ「愛を抱いて生きよ。南無妙法蓮華経」 神社費の請求が来る。きっと日蓮は法華経を信仰するなら寛容の心を抱いていたはずだ。彼は悪になびくもの、得体の知れぬものへの注意を喚起していたに違いない。すると聖書が貫井の日蓮正宗を支持する。「製本に回すな」とも。私に訂正するだけの覚悟がない。私の思想は妄想なのか。神と聖書。こんな板挟みは初めてだ。聖書が言った。「日蓮の正統なる血脈は当然のように義人に流れている」。貫井は私の出現までの教えを訴えている。ある意味、正当なるドグマだ。この葛藤は必要だったのである。「堀くんへ」

心配無用、私にはいつも悪意はありません。私と縁遠かったのは天理教のせいです。神の義と愛。そして南無妙法蓮華経。信じて下さい。運が開けますよ。かかわるもの達への感謝と恩を忘れてはいけません。布施行は自己執着から離れる一番の修行です。善きことが続きますよ。利他の精神ですね。ちなみに私の自筆本を手元に置きたければ3千円いただきます。ハードルを上げるのは、幸せな人生を送るための契機にして頂きたいからです。でも強制ではありません。安心して読書を楽しんで下さい。本を受け取ってくれた。私は嬉しいのです。堀くん、不審を持ったり、心配したりしないでね。私は金儲けなどつゆほども考えていないからね。あなたが心安らかに、幸せであることを祈っています。私の本、ご精読ありがとうございます。誰かが言っていたよ。「リセットはできないけどスタートはいつでもできる」本当にそうだと思うよ。仕事の面談はうまくいったかい。また良かったら一報ください。気に障ったらお知らせくださいね。私には悪意というものがありません。目に見えない世界の表現。不気味と思ったかい。まずは私を神だと認めなくていい。君の無垢な部分に好感を持っている。しばらく自然体で付き合ってください。そのうち何かが分かります。思いやり、愛です。嘘を含め不誠実は善くない。信用を失う。それが悪運を呼び寄せるのだ。そして自己に執着するとき大事なものを見落とし幸福が加速度をもって遠

ざかるのです。勇気をもって生きよ。臆病になり腰を引くとき真心が伝わらず人を傷つけ、怒りをかうことが多にしています。また己に固執する人からは人心が離れます。義と愛を貫くところ、人々は支持します。だから、まず人様の喜びを考えること。媚びよと言っているのではない。諸法無我ということです。皆、関係性を持ち、因縁で繋がっている。人を幸せにした分、自分も幸せになる。神仏が働くのだ。連絡来ないけど仕事先うまくいかなかったのかい。英気を養い再スタート。よくある話だ。米は3千円で10キロ買える。人の繋がりを大切に。開放的、楽観的に。周りを見て下さい。夜中の地震、すごかったね。私が言っているように3月末から4月、終末は訪れる。最後の警告、訓戒です。私につながる枝を絶たないこと。永遠の命が実らない。米の話は布施についてとは違うよ。生活の経費のことです。自分を大切に困難なら逃げる。法華経譬喩品第三です。また声ささ上げれば何とかなる。自分にとらわれず、よく周りを観察して下さい。イエスは聖書に預言され、日蓮は法華経に書かれている。イエスは律法学者、祭司長などの偽善者、日蓮は念仏という悪魔をはじめとする邪教と闘った。二人を同一と信じるかは、絶対、君もそうあってほしい。何よりも私の自覚がこれからの善への方向性の信用、裏付けになっているからである。

「貫井へ」、

約束した文庫本は送らない。君は好い奴だと聖書は言う。新しい本を作成中だ。それを送る。死んでないよな。俺は俺で生きる。世間はずるい奴が多すぎる。だけど貫井、喧嘩好き、修羅の道、衝突因縁。気を付けないといけない。融合してこそ大望はなる。私が日蓮であることを聖書が保証している。お前の私への精神破綻という差別的侮辱。ハートが強くなる。また教わったな。裸の王様にならずに済んだ。奉安堂の大本尊への南無妙法蓮華経が君の今を支えているのだね。すごい念をパソコンの画面より感じる。貫井死ぬなよ。病床より立て。この世は差別が顕著である。「道頓堀人情」。ふられたぐらいで泣くのは阿呆や、負けたらあかん東京にと唐突に続く。その意味は。道頓堀は優しい町や、けじめをつけろと。そして判るやつには解っている。三吉魂があればうちが小春になりましょう。俺も判った、「東京」と形容したのは、ビルディング、コンクリートジャングル。組織。学歴、資格に始まる肩書、管理、競争。差別がべったりついている。欲望から比較する、収入とその源。美しい恋は成り立たない。「道頓堀」とは、思いやり、優しさ、いたわり、その日暮らしの金儲け、義理と人情。本来の人間らしい愛。どちらも世間である。精神科医療、資格に拘る。生き方に挫折した障害者に対しどんなサービスが提供できるか。これはひとつのたとえであり、そこにはサタンがハッキリ見える。食い物のうまい、まずいひとつとっても、す

べては差別である。空の教えから南無妙法蓮華経へと向かわねば真実の愛は見いだせない。心の温かさ、美しさは、差別から離れたところにあり、そこに幸福はある。「覚り」とは仏教でいう空から外れた分別（差別）をしない心である。貫井元気でいてくれ。日蓮が凶顕した、戒壇の大本尊。君は愛と言ったね。日蓮と当体なら間違いない。日蓮は愛である聖書の神と同一だから。そして私によって愛は変化した。真如、皆、心の奥座敷へと駒を進める。

スタッフの皆さん、今回もありがとう。
読者の皆様、ご精読本当に感謝します。では。

さようなら

義人（ヨシト）

自己承認欲が利他の精神で働くなら
それは社会貢献となる

義人